

I 「さて」の意味。

原語：ウーン。「従って、だから、それで」の意。同じ原語→「そういうわけですから」（ローマ12：1）。これは、前半、エペソ1－3章（救いの教理・神の驚くべき救いの恵み・先行する神の恵み）と後半、4－6章（実践、神の驚く恵みへの応答）のつながりの非常に大切なことばです。新共同訳聖書「こういうわけで」、詳訳聖書、新共同訳聖書「そこで」、ほとんどの英語の聖書の訳「There for」（それゆえ）。聖書の中で、「それゆえ」「そこで」「そういうわけですから」ということばに出会ったなら、常に特別の注意を払うべきです。というのは、ある目的の「ために」（for）そこにある（there）のだから。この大切な順序、つながりのことばは、他の書にもある。ローマ人への手紙：前半の1－11章（人間の罪とその罪人である私達を救われる神の救いの教理、父・子・聖霊なる神の先行する驚くべき恵み＝キリストによる贖い、罪の償い、滅びからの買戻し、信仰による義認、キリストとの霊的な結合、御霊なる神の内住と御霊による新しい歩み、ご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された神の愛、イエスにある神の愛から、私達を、何ものも引き離すことができない神の愛）。12－16章は、神の驚くべき恵みに応答しての実践。そのつながりの御言葉は、12：1にある「そういうわけですから」＝「こんなに神に愛され、神の驚く恵みを受け続けているのですから」その恵みに心から感謝して、神の喜ばれる歩みをしましょう！ガラテヤ人への手紙3章と4章が神の救いの教理、神の先行する恵み、その後、5、6章で神の恵みへの応答の実践。つながりの御言葉の5：1にも「ですから」がある。コロサイ人への手紙では、1章－2：5までが、神の救い、神の先行する恵み、2：6から4：18は、神の恵みに感謝しての応答の実践。そのつながりとなる2：6に「ですから」（ウーン）がある。今、講解説教をしておりますエペソ人への手紙も同じです。前半の1－3章は、私達人間の罪（2：1－3）と私達罪人を救う神の救いの教理、神の先行する驚くべき恵み、父なる神の祝福、神が私達を救いに選んでくださった恵み、主イエスの十字架の血の恵みによる私達の数えきれない罪の赦し、聖霊なる神による私達の救いの保証。後半の4－6章は、先行する神の恵みへの感謝から生まれる新しい歩み、実践、神の喜ばれる歩み。そのつながりのことばが、「さて」、原語では、「ウーン」、つまり、「そういうわけですから」＝こんなに神に愛され、罪の滅びから救われ、神の驚くべき恵みを受け続けているのですから。

II つなぎの御言葉（原語：ウーン、それゆえ、そういうわけですから）と罪と神の救いの教理、神の恵みが先で、その後、恵みへの応答としての実践が聖書の順番である事から教えられる事。

※パウロは、御聖霊の霊感を受けて各手紙を書いた。神の恵みへの応答として、後半、信仰の実践が記されるが、御聖霊の導きにより、神と救いの教理が、また述べられている事も覚えておきたい。救いの教理、恵みと実践は切り離せない事を示している。

1. 洗礼準備や転入の学びのテキストの順番を教えられる。最初テキストは、「神・罪・救い」を学ぶ教理、神の救いの恵みの学び。次に、神の恵みへの感謝の応答としての信仰生活、教会生活、社会生活の学び。聖書の順序に従って。41年と半年の証し：「神・罪・救い」の教理、恵みを、御聖霊により心で理解していない人に、信仰生活、教会生活を教えると、喜びではなく、戒律主義（こうしななければならないと窮屈な思い）となり、クリスチャン生活が重荷となる。この事に聖霊が気づかせられる時、その方を愛して、その方の本当の新生、御聖霊の内住が与えられる様に祈るようになりました。そのまた逆の恵みもある。御聖霊により、自分の罪の自覚と主の十字架の恵みを心に深く理解させられ続けている人は、主の恵みを数え、喜んで信仰生活、感謝からの捧げものをする。戒律主義、強制ではなく、神の驚くべき恵みへの応答としての信仰生活。

2. 洗礼、転入後も、この順序を忘れず学び続ける。※教理、恵みから実践、そして実践から教理に戻り、深く学び、また実践へ遣わされる。恵みから実践へ、実践しつつ、足りなさを知り、基本、恵みに立ち返り、また深く（正しい知識、教理・恵みと実践を切り離さず）学び、実践し、成長し続ける。

※先行する神の恵みを味わわない実践、信仰生活は、だんだん重荷となり、喜び恵みのない戒律主義となる。いつも先行する恵みを味わいたい！いつも主の恵みを数え感謝したい。「主が良くして下さったことを何一つ忘れるな」詩篇103：2。「私たちが滅びうせなかったのは、主の恵みによる。主のあわれみは尽きないからだ。それは朝ごとに新しい」哀歌3：22, 23

3. 神が与えられた66巻の聖書の順序を大切に読み味わう。聖書の通読を大切にする。「ですから」や「そういうわけですから」「しかし」の接続詞、前後関係を大切に読み味わう時、みことばの恵みが増す。

Ⅲ 神の驚くべき恵みを味わい、自覚した者の神への応答。

「信仰、信仰生活とは、神の恵みへの応答！」

「主の囚人である私（主に捕えられ救われ、主の召しに従って福音に仕え、獄中にあるパウロ。主の召しに従う故に獄中にいても、主に愛され主の愛を深く知り続け、神の満ち満ちたさまに変えられ続けているパウロ。私達は、苦しみを受けながらも、主に感謝し、歩んでいる方々を見ると励まされる）はあなたがたに勧めます。召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい」：1。「召す」の原語の意＝呼ぶ、呼び寄せる、呼び出す、呼び集める、招く。神は、私達を救いに招き、世から呼び出された。感謝します。「あなたがた」＝教会＝クリスチャンの集まりそのもの。神の召しの目的は、私達を救い、キリストにつながる一つのからだである教会とし、教会が神の栄光を現わす事。「主の祈り」の最初の祈りも「御名があがめられますように」。次に「みこころが行われますように」。神の召しにふさわしい歩み＝神が喜ばれる神の恵みへの応答＝神に喜ばれる歩みをする

1. 教会としても、個人としても、まず、神の大きな愛、神の驚くべき恵みを知り続け、味わい続ける事です。その溢れる神の恵みに感謝し、神を崇め、賛美し（本日聖歌453番をもって賛美したい）、礼拝し、日々、神のみこころを伺い、祈り求め、神の喜ばれる事を選び取って歩む事です。神の恵みを数え感謝し、神の喜ばれる事、御心を知り、行えるように祈りましょう。
「いつも喜んでいなさい（神ご自身を、神の救いを、主の愛と主がいつも共にいて下さる恵みを）。絶えず祈りなさい（絶えず神と交わりなさい）。すべてのことにおいて（あらゆる状況の中で、主の恵みを数え。不平の心のボタンではなく、感謝のボタンを押す）感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです」Ⅰテサロニケ5：16-18
2. 「神のみこころは、あなたがたが聖なる者となることです。あなたがたが淫らな行いを避け、一人一人がわきまえて、自分のからだを聖なる尊いものとして保ち」Ⅰテサロニケ4：3, 4。
神は主の十字架の血と御聖霊の内住の聖めにより、神に拠り頼む（私達に分）私達を聖め続けて下さる！「宣教と成長」。
3. 「私たちが御子キリストの名を信じ、キリストが命じられたとおりに互いに愛し合うこと、それが神の命令です」Ⅰヨハネ3：23。主を信じる事も互いに愛する事も、主の奇蹟、主の力！
4. 「あなたがたが闇（悪魔が支配する滅び）の中から、ご自分の驚くべき光の中に召して下さった方の栄誉（真の救い）を、あなたがたが告げ知らせるためです」Ⅰペテロ2：9